

科目名	教員名
表現文化論ⅠA	森 瑞枝

免許・課程

教職課程

資格課程

開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日	時限	開講学年	単位数
渋谷	集中	スプリングセッション	スプリングセッション	2	2

講義概要

授業のテーマ

言語と身体を以って表現文化を探究する、学芸としての謡曲。

授業の内容

能の詞章に付された節は、それ自体が解釈であり、作品の可能性を開く扉である。謡曲の実演を通して作品に主体的にかかわることにより、新たな視座や方法を発見する。思考と身体感覚とが表裏一体に充実してゆく体験とともに、それを他者と共有する場を実現する。

今回のセッションでは、謡曲「源氏供養」によって、私たちの「日本の文化」イメージに謡曲がもたらした作用を検分する。金春流現行版の謡本（台本・楽譜）の詞章と節を吟味し、実際に謡（うた）うことを通して、能の詩的言語と身体表現を体験し、曲の構想、それらの土台となっている思想や美意識に迫る。

到達目標

【知識・技能 A2】 能「源氏供養」の構造と内容、謡の基本的な事柄を説明し例示できる。

【思考・判断・表現 B2・B3】 詩的言語をとらえることができる。 自他の実演を相対的に評価できる。

【主体性と共働・態度 C1・2・3・4】 能の総合芸術たる所以を具体的に知ることにより、物事に対して多角的にアプローチする感覚を身につけるとともに、芸術上の核心を洞察するセンスを磨く。自分のパフォーマンスを通して、他者の前に自己を開示しようと努め、他者のパフォーマンスから積極的に学ぼうと努める。

授業計画

第1回	一日目午前①： ガイダンス 謡本について。謡本の受容の歴史。 【事前学修 分】 ⇒能の入門書、ガイドブックの類に目を通しておく。 【事後学修 分】
-----	--

<p>第 2 回</p>	<p>一日目午前②：能と源氏物語について。能《源氏供養》の概説。謡本「源氏供養」の素読。素謡。謡の発声、節ハカセ（記号）解説。授業内小レポート</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p>
<p>第 3 回</p>	<p>一日目午後①：素謡。発声、節、中心とする解説とワークショップ</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p>
<p>第 4 回</p>	<p>一日目午後②：素謡。授業内小レポート</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p> <p>⇒配布資料の復習。教科書＝謡本「源氏供養」を声を出して読みなおす。</p>
<p>第 5 回</p>	<p>二日目午前 ①：素謡と詞章の読解・分析。引用されている詩歌など。</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p>
<p>第 6 回</p>	<p>二日目午前②：素謡と詞章の読解・分析。授業内小レポート</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p>
<p>第 7 回</p>	<p>二日目午後①：素謡と詞章の読解・分析各自の課題を絞ってゆく。</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p>
<p>第 8 回</p>	<p>二日目午後②：素謡。詞章の読解・分析と能《源氏供養》の構想。課題仮決定。授業内レポート</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p> <p>⇒自分なりに素謡してみる。配布資料を読む。</p>
<p>第 9 回</p>	<p>三日目午前①：能《源氏供養》記録映像の鑑賞。</p> <p>【事前学修 分】 【事後学修 分】</p>

第 10 回	三日目午前②：参考映像、録音の観賞ディスカッション、独吟、連吟課題の選定。授業内レポート 【事前学修 分】 【事後学修 分】
第 11 回	三日目午後①：課題部分の稽古 【事前学修 分】 【事後学修 分】
第 12 回	三日目午後②：課題部分の稽古。授業内レポート 【事前学修 分】 【事後学修 分】
第 13 回	四日目午前①課題の稽古と解説 【事前学修 分】 【事後学修 分】
第 14 回	四日目：午後①各自の課題実技の披露 【事前学修 分】 【事後学修 分】
第 15 回	四日目：午後②連吟《源氏供養》（全員）最終レポート 【事前学修 分】 【事後学修 分】
授業計画の説明	段階を踏んでゆくことで、詞章の探究が作品の魅力を引き出し、多彩な享受をもたらすようにプログラムしている。 講義と実技は密接不可分である。講義に積極的に臨めれば、実技はたとえ難しくても時間を忘れて面白くなる。 準備時間は融通無限。

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業時間外の学習方法

4日間、謡本「源氏供養」を繰り返し開き、謡う。すると謡が身体に浸みてゆきます。詞章の吟味がなによりも大切です。稽古とは、声に出して言葉を吟味すること。そしてそれは、自分自身の声や身体を意識することに他なりません。

謡や仕舞を要領よくこなすことを、この授業は望んでいません。

謡曲はさまざまな文化資源の宝庫です。この授業では日頃から色々な芸術にふれ、世の中を観察し、感覚を研ぎ澄ましていることが学習です。謡曲だけでなく、色々なことが面白くなります。

受講に関するアドバイス

声を出しやすい、動きやすい服装で。
 頭脳と身体は連動している。朝晩休み時間、身体のストレッチは効果大。
 本来なら能は面と装束をつけているのだと思えば（実際はつけないが）、外見は気にならない。とにかく、恥ずかしがらず、声を出し、試す。

成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
平常点	100%	授業内レポート、発言、実技に対する態度をあわせ、総合的に評価する。

※すべての授業に出席することが原則であり、出席自体を加点の対象とすることはできません。

注意事項	この講義では、講義と実技が一体に展開します。実技の出来不出来、いわゆる上手・下手を評価するものではない。作品のテーマを探求し、まっすぐ役になろうとする意欲が大切。それによって各人が身体もろとも思索を深めてゆく過程を重視します。意欲は表現にあらわれます。
-------------	--

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

実務経験に関する記載	シテ方金春流の能楽師として演能している。
-------------------	----------------------

履修登録制限・備考	
------------------	--

教科書・参考文献等

教科書

『源氏供養』（金春流普及版）：（公社）金春円満井会出版部
 本（教科書）は必須。徹底的に使って、この楽譜・台本を自分のモノにしてゆく。（一般書店では扱っていないので事前に生協へ求めておくこと。）

参考文献

書名	著者名	出版社	備考
金春の能 上 中世を汲む	金春安明	新宿書房	
謡曲選集	野上豊一郎	岩波書店	岩波文庫
源氏物語		小学館	新編日本古典文学全集
謡曲集 上・中・下	伊藤正義	新潮社	新潮日本古典集成
謡曲集 上・下	小山弘志	小学館	新編日本古典文学全集
謡曲百番	西野春雄	岩波書店	新日本文学大系
源氏物語と漢世界	飯沼清子	新典社	
白楽天	下定雅弘	角川書店	角川ソフィア文庫
近代能楽集	三島由紀夫	新潮社	新潮文庫

参考文献コメント

能一般の入門書、概説書、曲目解説の書籍、Web はいろいろ沢山あるので、なにか見ておくこと。

参考になるウェブページ

社団法人能楽協会 <http://www.nohgaku.o/r.jp/>

the 能ドットコム <https://www.the-noh.com/jp/sekai/index.html>